

	ゼミナール名	ゼミナール III (経営学ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	石川 雅敏 (いしかわ まさはる)		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	4 年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	水曜日 3 限	単 位 数	2 単位
	実 施 方 法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	企業の経営戦略を事例研究する。 同一産業分野の2つ以上の会社の経営を比較し、業績の差の原因を考える。
ゼミの到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1) 地域企業が外部環境の変化にどのような戦略で対応しているかが理解できる。
ゼミの概要	研究対象とする企業または産業を1つ選択し、外部環境の変化との関係性に特に注目して調査研究を行う。
授業時間外の学習	1) 経営戦略に関する基礎的知識の学習 2) 企業の経営情報の収集および解析
履修条件	研究対象としたい企業、産業を具体的に持っており、その理由が説明できること。 3年間研究し、4年次に研究発表を原則として行うこと。
テキスト	特にありません。
参考文献・資料	特にありません。
成績評価の方法	授業における優れた意見の発出 (20%)、レポート (30%)、定期試験 (50%) ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週水曜日・金曜日 13:00～15:00 *これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	企業を研究調査して、自分の就職活動に活かしましょう。

授業計画			
第1回	イントロダクション 研究倫理教育:研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について	第17回	企業調査、
第2回	研究対象企業の候補探し	第18回	企業調査
第3回	研究対象企業の候補探し	第19回	企業調査
第4回	研究対象企業の候補探し	第20回	企業調査
第5回	候補企業の概要調査	第21回	企業調査
第6回	候補企業の概要調査	第22回	企業調査
第7回	候補企業の概要調査	第23回	企業調査
第8回	研究企業の選択	第24回	企業調査
第9回	研究企業の選択	第25回	企業調査
第10回	研究企業の選択	第26回	企業調査
第11回	企業調査	第27回	企業調査
第12回	企業調査	第28回	企業調査
第13回	企業調査	第29回	企業調査
第14回	企業調査	第30回	企業調査
第15回	企業調査	第31回	研究発表
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（行動科学ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	市原 光匡		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	4 年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	水曜日 3 限	単 位 数	2 単位
	実 施 方 法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	教育学やその基礎となる行動科学の研究手法に触れ、研究の素地を養うとともに、その手法を用いて課題研究を行う。
ゼミの到達目標	1. 教育学やその基盤としての行動科学の研究枠組みをふまえ、個々の能力や適性、興味関心をもとに研究テーマを設定し、それにしたがって研究を行うことができる。 2. 研究の成果を適切にまとめ、発表することができる。
ゼミの概要	行動科学の研究手法を用い、各自が研究課題に取り組む。研究の成果は論文としてまとめる。まず問題関心を明らかにし、テーマを設定、適切な研究方法を選択する。それらは研究計画書にまとめ、報告会で発表する。さらに計画書にしたがい調査など研究活動を行った後、データを分析し得られた知見をまとめ、文章化していく。最終的には執筆した論文を報告会で発表する。
授業時間外の学習	現代の社会問題に関心を向け、自分なりの考えを主張できるようにしておきたい(1.5時間程度)。また復習として、授業で取りあげる研究分野ごとにその研究方法や研究の意義などをふまえておくこと(1.5時間程度)。 なお、夏季休暇中に調査活動を実施、データ採取の予定である。
履修条件	3 年次までに「生涯学習」「地域フィールドワーク」「教育学入門」のいずれかを修得しているもの。 <u>なお、履修を希望するものは、履修登録に先だって担当教員と面談し、履修の許可を得ること。履修の許可を得ないまま履修登録をしても、単位の修得を認めない。</u>
テキスト	特に使用しない。
参考文献・資料	秋元律郎・岩永雅也・倉沢進〔編著〕『社会学入門』放送大学教育振興会、2001。 小川正人・森津太子・山口義枝〔編著〕『心理と教育を学ぶために』放送大学教育振興会、2012。 その他研究過程で必要となる資料・文献については適宜指示する。
成績評価の方法	ゼミナール内での発表・報告 30%、卒業論文 50%、期末試験 20%の割合で評価を行う。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 9:00～10:30・金曜日 13:00～14:30
成績評価基準	秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)
学生へのメッセージ	学生の参加によって成り立つ授業である。時間と手間はかかるが、興味関心をもって積極的に参加すれば、他の授業では得られない発見や体験もできる。したがってゼミナールの活動には積極的に参加すること。また各回意見交換の機会を設けるので、ゼミナール内でのコミュニケーションを深め、他者と協働しながら学習をすすめていくこと。 なお、事前連絡なしの欠席、遅刻は一切認めない。

授業計画			
第1回	ガイダンス・研究倫理教育（研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について）	第17回	データの整理
第2回	研究の成立する要件	第18回	データ入力
第3回	問題意識の明確化	第19回	データ分析
第4回	研究テーマの設定	第20回	研究ノートの作成①（構成）
第5回	研究テーマの報告会①（第1グループ）	第21回	研究ノートの作成②（各章の内容）
第6回	研究テーマの報告会②（第2グループ）	第22回	中間報告会①（第1グループ）
第7回	研究計画の策定①（仮説の設定）	第23回	中間報告会②（第2グループ）
第8回	研究計画の策定②（研究方法の選択）	第24回	中間報告会③（第3グループ）
第9回	研究計画の策定③（先行研究）	第25回	卒業論文の執筆①（文章の表現）
第10回	研究計画の策定④（計画の適切性）	第26回	卒業論文の執筆②（図表の整理）
第11回	研究計画の報告会①（第1グループ）	第27回	卒業論文の執筆③（専門用語）
第12回	研究計画の報告会②（第2グループ）	第28回	卒業論文の執筆④（注・引用文献）
第13回	研究計画書の作成	第29回	卒業論文報告①（第1グループ）
第14回	研究のマナー	第30回	卒業論文報告②（第2グループ）
第15回	事前調査の実施	第31回	卒業論文報告③（第3グループ）
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ(刑事法ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	岡崎 頌平		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	4 年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	水曜日 3 限	単 位 数	2 単位
	実 施 方 法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	刑事法の重要問題を研究する
ゼミの到達目標	本ゼミナールでは、ゼミナールⅡで完成させたゼミレポートを発展させて、ゼミ論文としてまとめあげてもらいます(成績評価の方法を確認すること)。ただ、3年生配当の刑事法科目を履修して、刑事政策や少年司法に関心をもった学生が出てくることは十分に想定されますので、必ずしもゼミレポートで選択したテーマでのゼミ論文完成に拘束されることはないと思います。しかしながら、その場合には、これまで学んできたことをしっかりと活かして、完成までのロードマップを早めに作りあげることが重要になります。
ゼミの概要	他者の批判に耐えうる質・量を備えたゼミ論文の完成
授業時間外の学習	・ゼミ論文完成に向けた準備をすること。(240分) ・計画的に執筆を進めること。
履修条件	・<u>学生生活入門Ⅰ・Ⅱ</u>(※総合科目Ⅰ・Ⅱではない)、裁判、刑法総論、刑法各論、外国法制研究、刑事訴訟法、刑事政策、刑事判例研究の単位を修得済みであること。 ・体験期間中に出席し、その際に履修条件の確認を含めた面談を受けること。 <u>上記の条件は必要条件であるから、これらの条件を充たさない学生は受け入れない(履修を認めない)。</u>
テキスト	受講者が使用している基本書など
参考文献・資料	中山研一ほか『レヴィジオン刑法1・2・3』成文堂(1997・2002・2009)；山口厚『問題探究 刑法総論・刑法各論』有斐閣(1998・1999)；山口厚ほか『理論刑法学の最前線Ⅰ・Ⅱ』岩波書店(2001・2006)；西田典之ほか『注釈刑法 第1・2・4巻』有斐閣(2010・2016・2021)；佐伯仁志ほか『山口厚先生古稀祝賀論文集』有斐閣(2023)
成績評価の方法	ゼミ論文50%、授業への参加状況(報告・質疑応答など)30%、定期試験20% ※ゼミ論文については、1枚あたり40字×30行の用紙設定(A4サイズ)で最低10枚以上のものの提出を求める予定です。また、公開の場での報告会を予定しています。
オフィスアワー	火曜3・4限
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	ゼミナールは学生同士の主体的な学びの場になりますので、積極的な参加(発言)を求めます(報告レジュメを作成することはもちろん、報告しない学生もレジュメを確認するなどして、積極的に発言できるように準備してください。発言のなかった学生は欠席として扱います)。 また、これも当然のことを述べることにになりますが、欠席・遅刻をする場合には必ず連絡するようにしてください。無断での欠席・遅刻は厳禁です(無断での欠席・遅刻があった場合、それ以降の履修を認めず、成績評価をしません)。

授業計画			
第1回	イントロダクション[講義の進め方など] ※研究倫理教育も実施	第17回	第3回報告①
第2回	第1回報告①	第18回	第3回報告②
第3回	第1回報告②	第19回	第3回報告③
第4回	第1回報告③	第20回	第3回報告④
第5回	第1回報告④	第21回	第3回報告⑤
第6回	第1回報告⑤	第22回	第3回報告⑥
第7回	第1回報告⑥	第23回	まとめ③
第8回	まとめ①	第24回	第4回報告①
第9回	第2回報告①	第25回	第4回報告②
第10回	第2回報告②	第26回	第4回報告③
第11回	第2回報告③	第27回	第4回報告④
第12回	第2回報告④	第28回	第4回報告⑤
第13回	第2回報告⑤	第29回	第4回報告⑥
第14回	第2回報告⑥	第30回	まとめ④
第15回	まとめ②	第31回	全体のまとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（公共政策と国際協力ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	木原 隆司		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	国内では、政府が策定する「公共政策」が本当に効果のあるものなのかの議論が尽きず、EBPM(証拠に基づく政策策定)が強く訴えられています。またSDG s（持続可能な開発目標）等、国際的に協力して解決すべき課題が山積している今日、「国際的な制度・政策調整」（国際公共政策）や「開発途上国への協力・支援」（開発協力）の重要性が増してきています。 本ゼミでは、担当教員の行政・国際交渉経験をも踏まえ、テキストや国際機関等の資料の「輪読」、文献調査、現地調査等により、公共政策や開発途上国・援助政策等に関する理論と実態を学び、開発協力を含む公共政策の在り方について検討していく予定です。
ゼミの到達目標	このゼミの目標は、公共政策や開発途上国・援助政策に関する基礎的な理論と実態を学ぶことにより、論理と実証に裏付けられた公共政策の策定や国際協力に参画できるような基礎的な知識と能力を涵養し、「協調できる強靱な社会人・国際人」となる素養を身に付けることにあります。4年次のゼミでは仕上げとして、身に付けた知識と分析手法を活用し、これまで行ってきた研究等を発展させて、具体的な「公共政策の課題」についての「卒業研究」を行います。その上で、研究成果を「卒業研究発表会」等で発表します（特に、「分析力」、「論理構成力」、「プレゼン（表現）力」を涵養します）
ゼミの概要	基本的には各「個人」で（場合によってはグループ）で「卒業研究」を進めます。3年次の研究テーマを深めても良いし、新たな研究テーマに取り組んでもらっても構いません（最初に「卒論の書き方」などを復習します）。（但し、①統計を一つは使う、②英語の参考文献を一つは見る、等の「木原ゼミの掟」を守ってもらいます）
授業時間外の学習	特に予定はしていませんが、卒論に必要な調査等があれば支援します。
履修条件	「 協調できる強靱な社会人・国際人 」を目指して、 ゼミ活動に「真面目」に取り組む学生 (真面目に取り組めない人は遠慮してください)
テキスト	特に予定はしていませんが、卒論に必要な文献等の相談にのります。
参考文献・資料	西村晃（2012）『これから経済学をまなぶ人のための数学基礎レッスン』日本経済評論社 山本拓・竹内明香（2024）『入門 計量経済学 第2版』新世社（必要に応じ説明します）
成績評価の方法	ゼミにおける取組・発表内容・プレゼン等を総合的に判断します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週火曜日・木曜日 10：40～12：10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	担当教員は、財務省・外務省・経済企画庁等の中央官庁の参事官・部長・課長等、米州開発銀行（IDB）・アジア開発銀行（ADB）国際機関職員やWTO（世界貿易機関）担当の一等書記官などの職務を通じて、長崎大学・九州大学・獨協大学の教授として、経済学を政策に役立て、学生が経済学を武器に「協調できる強靱な国際人」となるよう努めてきました。皆さんも、経済学や公共政策の知識を仕事や世の中の分析に役立てられる Cool な（カッコいい）社会人・国際人になりませんか？

授業計画（各回のゼミの最後に、各人から簡単にその日に行った事項を報告してもらいます）			
第1回	前期ガイダンス・研究倫理教育・論文の書き方	第17回	後期ガイダンス・論文の書き方指導（再）
第2回	各人の研究内容検討（1）	第18回	研究成果の作成（論文・PPT）（1）
第3回	各人の研究内容検討（2）	第19回	研究成果の作成（論文・PPT）（2）
第4回	各人の研究内容（仮）決定・論題発表	第20回	研究成果の作成（論文・PPT）（3）
第5回	各人の研究計画策定・研究開始（1）	第21回	研究成果の作成（論文・PPT）（4）
第6回	各人の研究計画策定・研究開始（2）	第22回	研究成果の作成（論文・PPT）（5）
第7回	文献調査・分析手法の検討・分析等（1）	第23回	ゼミ内卒論発表会（1）
第8回	文献調査・分析手法の検討・分析等（2）	第24回	ゼミ内卒論発表会（2）
第9回	文献調査・分析手法の検討・分析等（3）	第25回	ゼミ内卒論発表会（3）
第10回	文献調査・分析手法の検討・分析等（4）	第26回	ゼミ内卒論発表会（4）
第11回	文献調査・分析手法の検討・分析等（5）	第27回	予備日・事後学修
第12回	文献調査・分析手法の検討・分析等（6）	第28回	予備日・事後学修
第13回	研究の中間報告会（1）	第29回	予備日・事後学修
第14回	研究の中間報告会（2）	第30回	予備日・事後学修
第15回	研究の中間報告会（3）	第31回	予備日・事後学修
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（社会政策ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	木村 澄（きむら きよし）		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	4年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	金曜日 3 限	単 位 数	2 単位
	実施方法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	「人生の目的」とは何か？ その目的をどのような方法で達成するか？
ゼミの到達目標	人生100年時代の「新しい働き方と生き方」を考える。 ①さまざまな専門技能を身につけ、②いろいろなタイプの興味深い人たちとつながり、③消費を追求する人生から脱却して情熱的に何かを生み出す人生にすること。 自分が興味をいだける分野で高度な専門技能を習得すること、人間関係の資本を育むこと、消費に重きをおくのではなく、創造的に何かを生み出し、質の高い経験を大切にする働き方にシフトすることが必要です。 創造性とイノベーションを発揮してこそ、人間は労働に意義を見いだすことができます。 そのような新しい生き方を理解したうえで、ゼミ研究活動を進めます。そして、その成果がみなさんの職業生活と人生において生かせるようにすることを目標とします。
ゼミの概要	これからの職業生活を核とする人生の中で、いかにして「持続的幸福感」を得るか。その方法を歴史沿革的、法的、政策的、社会学的、心理学的などのさまざまな学問分野を通して考察する。
授業時間外の学習	各自のゼミ研究のテーマに沿って研究活動を進め、プレゼンテーションの準備をする。
履修条件	特にありません。
テキスト	ゼミナールの時間に必要に応じて資料を配付します。
参考文献・資料	ゼミナール内で指示します。
成績評価の方法	【参加状況（報告、質疑応答など：30％）、ゼミ研究活動（40％）プレゼンテーション（30％）】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・演習中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解および予習・復習が充分であることを確認するため、小テストを行うことがあります。 ・レポート課題を課す場合は、授業内または掲示板（ポータルサイト含む）で指示をします。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週火曜日 3 時間目（13：00～14：30）・木曜日 3 時間目（13：00～14：30） ※これ以外の時間帯でも可能な限り対応します。
成績評価基準	秀（90～100点）、優（80～89点）、良（70～79点）、可（60～69点）、不可（0～59点）
学生へのメッセージ	皆さんの将来の職業生活や人生をとおして必ず役に立ちます。 「わかる・できるようになる」を大切にしましょう。 できるだけ「楽しく」を目指します。食事会（焼肉！）で交流を図りましょう！

授業計画			
第1回	前期オリエンテーション	第17回	「研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について」後期オリエンテーション
第2回	研究テーマごとの構成の確認①	第18回	パワーポイントの作成
第3回	研究テーマごとの構成の確認②	第19回	パワーポイントの作成
第4回	研究テーマごとの構成の確認③	第20回	パワーポイントの作成
第5回	研究テーマごとの構成の確認④	第21回	パワーポイントの作成
第6回	研究テーマごとの構成の確認⑤	第22回	プレゼンテーションの練習①
第7回	イノベーションの確認	第23回	プレゼンテーションの練習②
第8回	イノベーションの確認	第24回	プレゼンテーションの練習③
第9回	イノベーションの確認	第25回	プレゼンテーションの練習④
第10回	イノベーションの確認	第26回	プレゼンテーションの練習⑤
第11回	イノベーションの確認	第27回	卒業研究：プレゼンテーション①
第12回	サマリーの発表と提出	第28回	卒業研究：プレゼンテーション②
第13回	サマリーの発表と提出	第29回	卒業研究：プレゼンテーション③
第14回	サマリーの発表と提出	第30回	卒業研究：プレゼンテーション④
第15回	サマリーの発表と提出	第31回	卒業研究：プレゼンテーション⑤
第16回	中間試験	第32回	期末試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ		
	ゼミ担当者名	國井法夫		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	4年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	水曜日 3 限	単 位 数	2 単位
	実 施 方 法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	各自が目指す就職のための資格取得を目指します。 例えば宅建士、FP 資格、簿記 2 級、証券外務員、税理士科目合格、中小企業診断士等
ゼミの到達目標	各自が自分の希望する仕事に就くための資格取得
ゼミの概要	各人が目指す資格のための勉強をしてもらう。
授業時間外の学 習	各自、問題演習並びにわからないところは研究室に聞きに来る。
履 修 条 件	学生便覧に掲載されているルールが守れる学生。
テ キ ス ト	各自に指示する。
参考文献・資料	必要に応じて紹介する。
成績評価の方法	授業への参加状況(報告、質疑応答など:30%)・学習態度(30%)・成績(40%)等で総合評価します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は 試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日 4 時間目
成績評価基準	秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	まじめに目標に向けて努力できる学生を希望します。

授業計画			
第1回	研究倫理教育 中小企業診断士について	第17回	中小企業経営・政策② 労働生産性の現状・企業の取組と生産性
第2回	経済学・経済政策について① 基礎・国民経済計算	第18回	中小企業経営・政策③ サービスの進展とサービス産業
第3回	経済学・経済政策について② 経済統計の知識	第19回	中小企業経営・政策④ サービス産業の生産効率向上の取組
第4回	経済学・経済政策について③ 乗数効果と45度線分析	第20回	中小企業経営・政策⑤ IT普及と中小企業・有効活用・その課題
第5回	経済学・経済政策について④ IS-LM分析・無差別曲線理論	第21回	中小企業経営・政策⑥ グローバル化への対応・海外展開と生産性
第6回	経済学・経済政策について⑤ 費用曲線・不完全競争	第22回	中小企業経営・政策⑦ 中小企業の事業再生・中小企業金融の現状
第7回	経済学・経済政策について⑥ 国際マクロ経済学・市場の失敗	第23回	中小企業経営・政策⑧ 中小企業基本法・モノづくり高度化法・促進法
第8回	企業経営理論① 経営戦略・成長戦略	第24回	財務・会計① 財務諸表概論・B/S・P/L・キャッシュフロー計算書
第9回	企業経営理論② PPM・競争戦略・市場地位別競争戦略	第25回	財務・会計② 株主資本等変動計算書・経営分析
第10回	企業経営理論③ 組織のデザイン・組織論	第26回	財務・会計③ 収益性分析・効率性分析
第11回	企業経営理論④ モチベーション理論・リーダーシップ理論	第27回	財務・会計④ 流動性分析・生産性分析
第12回	企業経営理論⑤ 人的資源管理と人事システム・マーケティング	第28回	財務・会計⑤ キャッシュフロー計算書分析
第13回	企業経営理論⑥ 戦略的マーケティング・消費者行動・製品戦略	第29回	財務・会計⑥ CVP分析
第14回	企業経営理論⑦ 価格戦略・流通チャンネル戦略・物流戦略	第30回	財務・会計⑦ 利益再分析
第15回	中小企業経営・政策① 我が国の経済動向・構造変化に直面する中小企業	第31回	まとめ
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（安全保障論ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	佐藤 克枝		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	4年次	開講期間	通年
	開 講 時 限	水曜日3限	単 位 数	2単位
	実 施 方 法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	安全保障の重要課題を研究する。
ゼミの到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を習得できます。 1 国家の成立要件（住民・領土・政府・外交能力）を説明できる。 2 領域及び日本の領土問題の概要を説明できる。 3 防衛政策の基本（専守防衛）、日米安全保障体制が説明できる。 4 国家安全保障戦略、事態対処法制、平和安全法制の概要を説明できる。 5 国連の集団安全保障体制と集団的自衛権の差異を説明できる。 6 武力攻撃事態への対処のための法律の概要を説明できる。 7 国民保護についての国や自治体の取り組みについて説明できる。 8 国際人道法について概要を理解している。 9 安全保障政策について意見を述べることができる。
ゼミの概要	日本の安全保障について 国際環境と国内政治がどのようにかかわってきたのかにも着目しつつ学んでいきます。 世界の各国は独自の安全保障政策や、安全保障組織により、自国の主権と独立を確保しています。現在の国際情勢、とりわけ軍事情勢は厳しい状況にあります。そのような中で、各国はそれぞれの防衛努力により、周辺諸国と連携するとともに、国連の集団的安全保障体制の下で平和と安全を維持しているところです。 当初はゼミナールⅠ及びⅡのふりかえりも入れつつ、安全保障体制についてまとめを行います。後半は、各自が興味を持ったテーマについてゼミ論文をまとめます。
授業時間外の学習	・日本の安全保障政策に関するニュースに関心を持つこと。 ・国際的な軍事情勢、国際テロ、日本周辺の情勢に関心を持ち、国連や当事国の対処状況に関心を持つこと。 ・毎回のゼミのはじめに、国際関係や安全保障に関するトピックスを発表できるよう準備すること。 （予習2時間程度、復習2時間程度）
履修条件	1 次の①～⑤の条件をすべて満たすこと。 ①学生生活入門Ⅰ・Ⅱ、または総合科目Ⅰ・Ⅱの単位を修得済みであること。 ②国際関係論、安全保障論概論、統治機構、民法総則、行政学Ⅰ、行政学Ⅱ、公共政策論、地域政策論、社会調査の仕方、国際研究入門、観光法規、観光社会学、世界政治学Ⅰ、世界政治学Ⅱ、時事経済入門、国際法のうち少なくとも3科目の単位を修得済みであること。 ③第1回の前半または後半に出席し、安全保障に関する関心事項についてのペーパーを提出すること（フォーマットは第1回ゼミナール時に配布する。）。 ④履修登録にあたっては、第1回ゼミナール時に担当教員と面接の上、登録許可を得ること。 2 安全保障論ゼミナールⅡの単位を修得済みであることが望ましい。 3 ゼミナール内は討議により進めるので、時間中に発言のない場合は出席と認めないことがある。
テキスト	授業中に指示する。
参考文献・資料	防衛白書（令和5年版）、外交青書（令和5年版）、田村重信等『日本の防衛法制』（内外出版）、同『日本の防衛政策』（内外出版）、森本敏『日本の安全保障』（実務教育出版）、武田康裕『安全

	保障のポイントがよくわかる本』(亜紀書房)、西原正『わかる平和安全法制』(朝蜷新聞社)、武田康裕ほか『新訂第5版 安全保障学入門』(亜紀書房)、渡邊隆『平和のための安全保障論 軍事力の役割と限界を知る』(かもがわ出版)、田村重信・さとう正久編著『教科書 日本の防衛政策』芙蓉書房出版、松本利秋『逆さ地図で解き明かす新世界情勢』(ウェッジ)
成績評価の方法	授業への参加状況(報告・質疑応答など)50%、ゼミ論文及びプレゼンテーション50% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日 14:40～16:10 水曜日 14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	国際関係や国家としての安全保障のあり方、国民保護等に興味のある学生の積極的な参加を期待しています。 ゼミ論文のテーマを定め、研究及び発表に入ることができるようにするため、毎回安全保障に関するトピックの討議に並行して、適時の論文指導を行います。後期には、実際に安全保障に携わる防衛省及び国民保護計画策定の中心となる自治体の関係者をゲストスピーカーとして招聘して特別講義をして頂き、安全保障について、さらに理解を深めてもらう予定です。

授業計画			
第1回	ガイダンス（研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について） 安全保障のまとめ（ゼミナールⅠ・Ⅱのふりかえり）	第17回	論文作成準備・テーマの確認・研究の方向性
第2回	今日の国際関係①（概観）	第18回	文献検索・中間指導（グループ1）
第3回	今日の国際関係②（地域ごと）	第19回	文献検索・中間指導（グループ2）
第4回	防衛政策①（（ゼミナールⅠ・Ⅱのふりかえり）	第20回	文献検索・中間指導（グループ3）
第5回	防衛政策②（テーマの抽出・討論①）	第21回	中間報告（グループ1）
第6回	防衛政策③（討論②）	第22回	中間報告（グループ2）
第7回	国民保護政策①（概観）	第23回	中間報告（グループ3）
第8回	国民保護政策②（討論）	第24回	個別指導①
第9回	国際人道法①（ジュネーブ条約概観）	第25回	個別指導②
第10回	国際人道法②（文民条約）	第26回	卒業論文ゼミナール発表（グループ1）
第11回	国際人道法③（捕虜条約）	第27回	卒業論文ゼミナール発表（グループ2）
第12回	国際連合の役割	第28回	卒業論文ゼミナール発表（グループ3）
第13回	紛争の平和的解決手段（討議）	第29回	特別講義①（ゲストスピーカー）
第14回	平和安全法制①（概観）	第30回	特別講義②（ゲストスピーカー）
第15回	平和安全法制②（我が国の平和協力の在り方）	第31回	全体のまとめ①
第16回	前期のまとめ	第32回	全体のまとめ②

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（政治学・行政学ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	中村逸春		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	社会とは何か？ 社会と個人との関係はどうあるべきか？ 私のゼミナールでは、こうした問いについて、政治学や行政学の文献を読み議論することを通じて、一緒に考えていければと思っています。
ゼミの到達目標	政治学の文献を読解する力と、他のゼミ生と議論する力を習得すること。 社会科学的な思考を身につけること。ゼミ論文を執筆するための能力を涵養すること。
ゼミの概要	政治学・行政学について幅広く学ぶため、後期には、三浦まり『さらば、男性政治』または、宮本太郎『共生保障——〈支え合い〉の戦略』を読み進める予定です。また、「卒業研究発表会」の準備にも取り組んでもらう予定です。 前期は、就職活動があると思いますので、負担の少ない別のものをテキストに選ぶつもりです（詳しくはガイダンスの際に紹介します）。 ゼミは毎回、指定箇所を事前に読んできて、当日は全員で議論するという形で進めます。テキストは専門書ではなく一般読者向けの新書などですので、比較的読みやすいと思います。
授業時間外の学習	テキストを読んで分からないことがあれば、事前に図書館やウェブ情報を通じて調べておくこと（2.0時間程度）。新聞などに日々目を通しておくこと（2.0時間程度）。
履修条件	担当教員の「ゼミナールⅡ」、「政治学」、「西洋政治思想史」、「生活と政治」のいずれかの単位を修得していることが望ましい（修得していない場合は、ご相談ください）。 ※ガイダンスに出席できない場合は、7階の研究室に一度お越しください。
テキスト	三浦まり『さらば、男性政治』（岩波新書、2023年）、宮本太郎『共生保障——〈支え合い〉の戦略』（岩波新書、2017年）。
参考文献・資料	その都度ゼミの時間に紹介します。
成績評価の方法	発言や報告などの取り組み姿勢（60%）、レポートまたは試験（40%）によって評価する。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	木曜・金曜 14:00～15:30
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	(1) ゼミについて確認しておきたい点などあれば、気軽に7階の研究室にお越しください。 (2) 政治に強い関心がなくても、特に問題はありません。政治とは何か、学問とは何なのか、一緒にゼミで考えましょう。 (3) 大人数にはならないと思いますので、5～6名ほどの少人数が好みの人にはお勧めです。 (4) 公務員試験の勉強についてある程度は助言ができると思います。 (5) ゼミナール発表会は法学部のものに参加しますが、経済学部の学生も歓迎します。

授業計画			
第1回	ガイダンス	第17回	後期のゼミ活動についての説明、個別面談
第2回	研究倫理、ゼミ内の役割分担	第18回	①日本型生活保障と排除の構造（『共生保障』）または、②男性ばかりの政治：権力の座に女性はいない（『さらば、男性政治』）
第3回	社会や政治に関する文献の購読①：基礎的なもの	第19回	卒業研究発表会の文献調査
第4回	社会や政治に関する文献の購読②：基礎的なもの	第20回	①「強い個人」の終焉（『共生保障』）または、②ジェンダー平等後進国が作り出した生きづらさ：深刻化する女性の貧困（『さらば、男性政治』）
第5回	社会や政治に関する文献の購読③：基礎的なもの	第21回	卒業研究発表会の準備：目次
第6回	時事問題：社会	第22回	①共生保障の基本的な考え方（『共生保障』）または、②女性を排除する日本の政治風土と選挙文化：飲み会を断らない女（『さらば、男性政治』）
第7回	社会や政治に関する文献の購読④：基礎的なもの	第23回	卒業研究発表会の準備：参考文献
第8回	社会や政治に関する文献の購読⑤：基礎的なもの	第24回	①地域における共生保障（『共生保障』）または、②ミソジニーとどう闘うか：女性を罰する（『さらば、男性政治』）
第9回	社会や政治に関する文献の購読⑥：応用的なもの	第25回	卒業研究発表会の準備：要旨
第10回	社会や政治に関する文献の購読⑦：応用的なもの	第26回	①ユニバーサル就労（『共生保障』）または、②なぜクオータが必要か：世界に広がるクオータ（『さらば、男性政治』）
第11回	時事問題：政治	第27回	卒業研究発表会のプレ・プレ発表会
第12回	社会や政治に関する文献の購読⑧：応用的なもの	第28回	①新しい家族的コミュニティ（『共生保障』）または、②ジェンダー平等で多様性のある政治に向けて：「女」であることの意味（『さらば、男性政治』）
第13回	社会や政治に関する文献の購読⑨：応用的なもの	第29回	卒業研究発表会のプレ発表会
第14回	社会や政治に関する文献の購読⑩：応用的なもの	第30回	卒業研究発表会
第15回	卒業研究発表会のテーマ設定、個人面談	第31回	一年間のゼミのまとめ
第16回	レポート（または定期試験）	第32回	レポート（または定期試験）

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（人間科学ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	西巻 丈児（にしまき じょうじ）		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	4年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	水曜日 3限	単 位 数	2単位
	実 施 方 法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	人間の「いのち」についてーいのちと経済との関係ー
ゼミの到達目標	・自分自身、ならびに他人の「いのち」を見つめる視点を獲得できる。 ・いのちと経済の関係から生ずる諸問題を説明できる。 ・自分の生き方を見つめる視点を養うことができる。
ゼミの概要	生きることの根源とされる「いのち」とは、いったい何なのだろうか。また、「いのちに値段はつけられない」などと言われたりもするが、実際の所、さまざまな場面で「いのち」にその価値・値段がつけられ、いのちが市場経済に巻き込まれている現状がある。 このゼミナールⅢでは、「生」と「死」にまつわるさまざまな問題を、「自己決定の概念」（自分に関連することは自身の意志で決定する）を柱にして考え、併せて、いのちと経済との関連も考えていく。 つねに私たちの身近にある生と死についての諸問題を、ゼミ生各自が「自分の問題」として考えられるよう、ドキュメンタリー映像やさまざまな資料をふんだんに交えながら授業を進めていく。 また、いのちにまつわる問題を一緒に考え、ディスカッションを積極的に行っていく。
授業時間外の学習	予習：（1.5時間程度） 授業の内容は連関しているので、毎回、配布する資料を復習しておき、前の回までの内容を自分なりに考えて授業に臨むようにすること。また、卒業論文完成に向けては、かなりの準備時間が必要となる。 復習：（1.5時間程度） 毎回配布する資料に参考文献を記載するので、復習するにはそれも参考にすること。
履修条件	・第1回目か第2回目のゼミナールに必ず出席して、「人間のいのち」に関する自身の問題意識を書くことが<u>第一条件</u>である。そして、履修登録に先立ち、本ゼミナールに<u>参加希望する旨を直接本教員に表明し、面談を受けることが、第二条件</u>である。 ・本ゼミナールでは、<u>卒業論文を執筆することがゼミナールに参加する絶対の条件</u>となっている。 ・卒業論文にまつわる発表が数回義務づけられ、また、ディスカッションの際には積極的に議論に参加することが求められる。
テキスト	特に指定はしない。ポータルサイトにて、毎回事前に配布するプリントが教科書の代わりとなる。また、パワーポイント、映像資料や文字資料も使用する。
参考文献・資料	授業内で適宜指示する。
成績評価の方法	授業時に毎回提出してもらいアクションペーパーによる理解度（20%）、発表時の内容（30%）と、定期試験（50%）を総合して、最終的な評価を下す。 また、欠席、遅刻、私語、居眠り、無断退出等については減点の対象とする。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 10:40～12:10 木曜日 10:40～12:10 事前連絡があれば、上記時間の他にも可能性あり。

成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	日々の暮らしの中に、自分自身の生き方を考えるさまざまなヒントが隠れている。解決すること はできないかもしれないが、考え続けるということはとても大切なことである。一緒に人間の問 題について考えていこう。

授業計画			
第1回	ガイダンスα： ・ゼミ参加者の自己紹介とゼミの進め方 ・研究活動における不正行為・不適切な行為の防 止について	第17回	ガイダンス：前期の復習と後期の授業展開
第2回	ガイダンスβ： ゼミ参加者の自己紹介とゼミの進め方	第18回	卒業論文完成計画Ⅲ：中間発表会①
第3回	オリエンテーション： 人間のいのちと金銭をめぐる問題	第19回	卒業論文完成計画Ⅲ：中間発表会②
第4回	人間のいのちをめぐる問題の諸相	第20回	卒業論文完成計画Ⅲ：中間発表会③
第5回	重度障害新生児をめぐる：パーソン論の問題	第21回	卒業論文完成計画Ⅲ：中間発表会④
第6回	卒業論文完成計画Ⅰ（レポート執筆の準備）： 文献の探し方、文献注記の書き方など	第22回	自己決定を超える問題
第7回	医療従事者と患者の関係： インフォームド・コンセントとは	第23回	脳死からの臓器移植
第8回	生き方の自己決定とは	第24回	資源としてのいのち
第9回	生き方の自己決定と尊厳ある死	第25回	脳死と人の死
第10回	世界に見る死の自己決定：安楽死について	第26回	自分の生き方とは
第11回	死を決定する権利をめぐる	第27回	卒業論文完成計画Ⅳ：完成発表会①
第12回	卒業論文完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会①	第28回	卒業論文完成計画Ⅳ：完成発表会②
第13回	卒業論文完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会②	第29回	卒業論文完成計画Ⅳ：完成発表会③
第14回	卒業論文完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会③	第30回	卒業論文完成計画Ⅳ：完成発表会④
第15回	前期のゼミのまとめと夏季休暇中の課題について	第31回	本ゼミナールの総括
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（表現文化ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	橋元 志保		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	日本やイギリス等の文化・文学について学び、大学生にふさわしい教養を身につけ、多文化世界を生きる基礎力を育成する。
ゼミの到達目標	このゼミナールの単位を良好な成績で修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 世界遺産を中心に日本や海外の文化に触れ、その歴史や特色を説明することができる。 2. 国内外の優れた文学に触れ、その主題や特色を文化的背景も含めて理解することができる。 3. 自然・文化財の保全、文化観光、国内外の文学等の研究を行い、論述やプレゼンテーションを行うことができる。
ゼミの概要	表現文化ゼミナールでは、文学や芸術、世界遺産等を中心に国内外の素晴らしい自然や文化に触れ、大学生にふさわしい教養を深めることを目的とします。また、日本やイギリス等の文学作品を中心に講読を行い、評論や論文を理解できるような読解力・思考力を涵養します。そして、文化観光や自然・文化財保護、異文化理解、国内外の文学等をテーマに論述及びプレゼンテーションが行えるような表現力も身につけていきます。なお、将来の進路や採用試験・公務員試験に関するサポートも行っています。
授業時間外の学習	1. ゼミで取り上げる論説や小説を、指定された頁まで必ず読んでください。また、難解な漢字や語句の意味は必ず調べておきましょう（1時間程度）。 2. プレゼンテーションの練習を行いますので、発表日までに、指定されたテーマによるパワーポイントの作成、及び発表準備を行うこと（3時間以上・発表前のみ）。 3. ゼミで紹介した文学作品やエッセイ、論文等を読むことを推奨します（2時間程度）。
履修条件	① 表現文化ゼミナールⅠまたはⅡを履修し、単位を修得した人。もしくは、「文章の読み方」「小論文の書き方」「日本の文学」「福祉と文学」「旅と文学」「世界文学としての日本文学」のいずれかを履修して単位を修得していること。 ② <u>前期の履修登録期間中（体験ゼミナールの1回目・2回目もしくは指定された時間）に担当教員と必ず面談し、登録の許可を得ること（事前に面談せず、履修登録だけを行った場合は、単位を認定できません）。</u> ③ 担当教員から連絡があった場合は必ず応答し、ゼミの課題には積極的に取り組み、学則は遵守すること。
テキスト	授業時に資料を配布します。また、特に後期はゼミの皆さんの意見を聞きながら、テキストを選んでいきます。
参考文献・資料	授業の中で随時、紹介していきます。君塚直隆『イギリスの歴史』（河出書房新社 2022年） 青木 保『異文化理解』『多文化世界』（岩波新書 2001年・2003年）他
成績評価の方法	【主体的な学びの姿勢（25%）、課題の提出（25%）、定期試験（50%）】の総合評価とします。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	木曜・金曜日 14:40-16:10 ※これ以外の時間は事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)

学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	「明日死ぬと思って生きなさい。永遠に生きると思って学びなさい」とは、ガンジーの言葉です。ぜひ一緒に、素晴らしい自然や歴史・文化をめぐる旅に出てみませんか。グローバル化の進む現代においては、よりいっそう多文化共生や個人の文化的背景の尊重が求められています。互いの文化を良く理解し、認め合うことは、平和への第一歩とも言えるのです。
----------------------	---

授業計画			
第1回	研究倫理教育	第17回	研究を深めるために
第2回	キャリア・プランニングⅠ	第18回	キャリア・プランニングⅡ
第3回	研究テーマについて	第19回	伝統文化と世界遺産
第4回	履歴書・エントリーシート・面接カード対策	第20回	文化財の保全と観光振興
第5回	筆記試験対策について	第21回	異文化を理解するには
第6回	面接試験対策（WEB・対面）について	第22回	多文化世界と宗教・民族の対立
第7回	グループ・ディスカッション対策	第23回	ジェンダーと多文化共生
第8回	就活の極意ー最終選考のポイントー	第24回	プレゼンテーションの技術Ⅱ
第9回	研究の基礎ー文献講読と論述ー	第25回	論述の方法ーレポートから論文へー
第10回	ユネスコの目指す世界平和と世界遺産	第26回	卒業プレゼンの練習Ⅰ
第11回	世界の中の文化遺産	第27回	卒業プレゼンの練習Ⅱ
第12回	アジアにおける世界遺産	第28回	卒業プレゼンテーションⅠ
第13回	世界遺産と日本の自然・文化	第29回	卒業プレゼンテーションⅡ
第14回	プレゼンテーションの技術Ⅰ	第30回	卒業プレゼンテーションⅢ
第15回	パワーポイント作成の技術Ⅰ	第31回	卒業プレゼンテーションⅣ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ		
	ゼミ担当者名	花田富二夫		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	法律・経済を包摂する社会学、社会文化学関係のテーマを設定し、卒業研究論文としてまとめる。
ゼミの到達目標	各人がテーマを設定し、資料を収集しながら、資料批判も行い、自らが課題解決に向けて努力すること。
ゼミの概要	自ら自由にテーマを設定し、研究計画の立案、計画の修正、文献の調査と読み込み、研究概要の構成などを執筆し、中間発表を行う。中間発表後、修正などを行い、最終的に卒業研究論文としてまとめ、発表する。
授業時間外の学習	卒業研究論文をまとめるには、教室の講義だけでは不可能。図書館や各種資料館などにも出向き、資料を収集する。主体的で積極的な態度が求められる。
履修条件	特になし。
テキスト	特になし。
参考文献・資料	授業時に指示する。
成績評価の方法	授業への参加状況（報告、質疑応答など）及び授業時の提出課題を重視する。これらを総合評価して換算する。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日4限目
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	遅刻・欠課は必ず連絡できる責任感と積極的に授業に取り組む真摯な態度を持ってもらいたい。 4年生ゼミなので、学習面だけでなく、就職活動とともに、生活面での指導も行う。充実した学生生活となるよう真剣に臨むこと。毎回パソコンを持参すること。

授業計画			
第1回	ガイダンス・研究倫理教育	第17回	研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について
第2回	パソコンによるランダム検索	第18回	中間報告発表会（1）
第3回	パソコンによる各省庁検索	第19回	中間報告発表会（2）
第4回	パソコンによる各機関検索	第20回	中間報告発表会（3）
第5回	研究テーマの絞り込みと面談（1）	第21回	卒業研究論文作成指導（1）
第6回	研究テーマの絞り込みと面談（2）	第22回	卒業研究論文作成指導（2）
第7回	資料収集と原稿執筆（1）	第23回	卒業研究論文作成指導（3）
第8回	資料収集と原稿執筆（2）	第24回	卒業研究論文作成指導（4）
第9回	資料収集と原稿執筆（3）	第25回	卒業研究論文作成指導（5）
第10回	資料収集と原稿執筆（4）	第26回	卒業研究論文作成指導（6）
第11回	資料収集と原稿執筆（5）	第27回	卒業研究発表（1）
第12回	パワーポイント作成（1）	第28回	卒業研究発表（2）
第13回	パワーポイント作成（2）	第29回	卒業研究発表（3）
第14回	パワーポイント作成（3）	第30回	卒業研究発表（4）
第15回	パワーポイント作成（4）	第31回	卒業研究発表（5）
第16回	定期試験 原稿提出	第32回	定期試験 卒業論文提出

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（日本経済のマクロ分析）		
	ゼミ担当者名	深澤泰郎		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	マクロ経済学的視点から、日本経済の問題点を特定しその解決策を探る。4年次の前半は、日本政府の財政赤字を取り上げる。また就活支援に注力する。最終年次なので後半は卒論指導を行う。
ゼミの到達目標	日本経済の最重要な問題点である「日本政府の財政赤字」の実態を明確に理解したうえで、その解決方法を探します。
ゼミの概要	4年次ということで、まず就職活動の支援と、最重要問題の「日本政府の財政赤字」に真正面から取り組みます。この問題についての理解を深めるとともに、自ら考える姿勢を自分のものとして下さい。他人の意見もよく聞いてお互いに討論をして下さい。この1年間で、卒論を作成して下さい。受講者の理解度、進行状況等を考慮して、シラバスを変更する場合があります。
授業時間外の学習	テキストの内容について、最新の経済データを事前に準備すること。
履修条件	日本経済新聞を購読すること（ゼミの最初に、輪番で経済記事の過去1週間のトピックスを報告してもらいます）
テキスト	「日本の財政はどうなっているのか」湯本雅氏 岩波書店（予定）
参考文献・資料	「財政危機の深層」小黒一正 NHK出版社 日本経済と財政危機の本質シリーズ8「このままでは、国家財政の破綻は確実！」深澤泰郎、 「日本の財政関係資料（令和3年10月）」財務省、 その他についてはゼミの中でお話しします。
成績評価の方法	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
オフィスアワー	火曜日 13:00～14:30 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 14:40～16:10
成績評価基準	輪読と意見発表と討論（35%）、輪読時のレジュメ（25%）、卒論（40%） 卒業論文の作成が本ゼミナール修了の必須条件です。卒業論文の完成は1月中旬とします。それまでに、教員の指導を受けて、了解を得て下さい。
学生へのメッセージ	企業の株価と日本経済は別のものです。株価が最高値を付けたとしても、日本の将来については、マクロ経済的には非常に暗い展望しか描けません。その解決策を探るには、まず日本経済の実態を把握して、将来予想を行う必要があります。そのうえで、自分で考える姿勢を習得できれば、就職の際にも、さらに就職後の人生に、「有効なツール」となります。 また卒論は日本経済に関するテーマであれば、自由としたいと思います。教員と相談してください。国全体は豊かにならない中で、個人として幸福になる道をいっしょに探しましょう。 ※受講者はかならずパソコンを持参すること。資料はポータルサイトに掲示します。また授業でパソコンを使用して、経済データの分析、グラフ作成を行う場合があります。

授業計画			
第1回	ガイダンス 研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について 研究倫理教育 教科書紹介 1年間の目標設定	第17回	研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について
第2回	財政総論	第18回	卒論作成指導(ただし、本年は3年次の社会保障と金融政策の問題点を取り上げる可能性あり)
第3回	中央政府の財政活動	第19回	卒論作成指導(同)
第4回	地方政府の財政活動	第20回	卒業論文進捗状況確認
第5回	租税に関する諸問題(1)	第21回	卒業論文進捗状況確認
第6回	租税に関する諸問題(2)	第22回	卒論作成指導(同)
第7回	社会保障制度に関する諸問題(1)	第23回	卒論作成指導(同)
第8回	社会保障制度に関する諸問題(2)	第24回	卒論作成指導(同)
第9回	地方財政に関する諸問題	第25回	卒論作成指導(同)
第10回	公債に関する諸問題	第26回	卒論作成指導(同)
第11回	財政ポジションの健全化を目指して	第27回	卒論作成指導
第12回	中長期の経済財政に関する試算(令和2年1月17日)の検証	第28回	卒論作成指導
第13回	第1回～第12回までのまとめとレポート作成	第29回	卒論作成指導
第14回	レポート作成	第30回	卒論発表
第15回	3年次及び上記も踏まえた卒論テーマ予告	第31回	卒論発表
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（ビジネス・企業ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	道端忠孝		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	ビジネス・企業を多方面から考察して明らかにする。特に、就職先としての企業組織の違いや企業の展開するビジネスの概要が分かるようにする。
ゼミの到達目標	商人としての会社企業や、会社以外の企業の特徴などを理解できること。 将来就職する会社などの企業やビジネスの実体を理解できるようになること。
ゼミの概要	ビジネス・企業を全体的に考察し、特に、商人としての会社企業やビジネスの実体を明らかにしたい。ゼミでは、最終的には、就職で希望する株式会社や、興味ある株式会社等の調査研究をレポート課題として仕上げ、報告をしてもらいます。ゼミの時間には、時折、資格取得の話や、学園祭への参加、ゼミのイベントなどにも触れます。
授業時間外の学習	1、ゼミナール開始前に資料の該当箇所目を通してください。分からない用語は調べてノートにまとめておいてください。(1・5時間程度) 2、ゼミナール開始前に復習をし、ノート整理しておいてください。(1・5時間程度) 3、日頃から新聞に目を通し、会社企業やビジネスに関する記事を切り抜き又はメモをしておいてください。(0・5時間程度)
履修条件	特にありません。
テキスト	テキストは使用しませんが、六法は用意してください。
参考文献・資料	授業で適宜紹介します。
成績評価の方法	・レポート報告(60%)・レポート提出(40%) ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週火曜日・金曜日 14:30～16:30
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	ビジネスのことや企業のことを理解して就職活動を有利に展開してください。

授業計画			
第1回	ビジネス・企業ゼミガイダンス、自己紹介（将来の目標など）、研究倫理教育	第17回	株式会社の設立ー合同会社と対比してー
第2回	金融業、銀行・信用金庫・信用組合はどう違う！	第18回	株式って！株価は！
第3回	貸金業や銀行などとはどう違う。秋田県信用保証協会ってどんなところ。	第19回	新株予約権って！
第4回	保険業、生命保険と損害保険はどう違うの！給与が高いのはなぜ？	第20回	株主総会
第5回	JA 共済や秋田県民共済は保険会社とどう違うの！	第21回	取締役会
第6回	JA やcoop は「組合」とあるが、どういう組織なの？	第22回	監査役・監査役会
第7回	ナイスやマルダイなどのスーパーと生協（coop）はどう違うの！	第23回	監査役会設置会社ーイオンリテール(株)ー
第8回	ホテル・旅館、国際観光ホテル・旅館はどうちがうの？なぜサービス料10%、消費税10%？	第24回	監査等委員会設置会社ー秋田・北都・荘内・山形・青森・みちのく・岩手・東北銀行など
第9回	自動車販売会社にもいろいろ；トヨタ、日産、スバル、マツダ、三菱、ダイハツ、いすゞ	第25回	指名委員会等設置会社ー北都銀行・荘内銀行の親会社＝フィデアホールディングス(株)や、イオン(株)
第10回	不動産会社、住宅販売会社、建設業の関係！	第26回	各自の選んだ会社・企業の運営は！
第11回	商工会、商工会議所の実態はどうなっているの！	第27回	北都銀行が合併するって！組織再編って！
第12回	個人企業と会社の違い、会社の種類と違い	第28回	会社分割、株式移転、株式交換のポイント
第13回	株式会社と合同会社の違い	第29回	レポートの作成（私の選らんだ企業）
第14回	1円株式会社って！	第30回	パワーポイントの作成①（私の選らんだ企業）
第15回	株主有限責任というが、本当！社長の連帯保証って！法人格否認って、	第31回	パワーポイントの作成②（私の選らんだ企業）
第16回	定期試験（レポート中間報告）	第32回	定期試験（レポート提出・報告）

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (マイクロデータ分析・データサイエンス)		
	ゼミ担当者名	森本 敦志		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	1. 経済データ分析に基づく研究を行います。 2. 全国的な論文大会へ出場し、入賞を目指します。 3. 経済学・データサイエンス系の大学院進学や国家公務員試験合格を目指します。
ゼミの到達目標	統計検定「データサイエンス基礎」を全員取得すること。
ゼミの概要	本ゼミでは、グループワークで研究を行います。ISFJなどの全国的なゼミ論文大会へ出場し、入賞を目指します。
授業時間外の学習	自分が関心を持っている分野の研究論文を読んでください。経済学分野の論文は英語で書かれているものが多いので、英語の学習も行ってください。
履修条件	<u>履修を希望する場合は、履修登録に先だって担当教員と面談し、履修の許可を得てください。</u> <u>履修の許可を得ないまま履修登録をしても、単位の修得を認定しません。</u>
テキスト	各グループの研究テーマに応じて適宜指示します。
参考文献・資料	各グループの研究テーマに応じて適宜指示します。
成績評価の方法	ゼミおよび関連行事への参加と取り組み姿勢 30%、研究成果の発表と貢献度 50%、定期試験 20%の割合で評価する ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	木曜日 9:00～10:30
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	研究の基本となる回帰分析や、データの操作について学びます。さらに因果推定に必要な様々な手法(パネルデータ分析、操作変数法、DID等)も学びます。データ分析はPythonを用いて行います。研究はグループワークで行います。他のメンバーと協調しながら研究を行ってください。

授業計画			
第1回	ガイダンス 研究倫理教育と活動方針の説明	第17回	研究計画の策定①
第2回	Python によるデータ分析の実習①	第18回	研究計画の策定②
第3回	Python によるデータ分析の実習②	第19回	研究計画の策定③
第4回	Python によるデータ分析の実習③	第20回	研究計画の策定④
第5回	Python によるデータ分析の実習④	第21回	研究論文の執筆①
第6回	Python によるデータ分析の実習⑤	第22回	研究論文の執筆②
第7回	実証研究の文献サーベイ①	第23回	研究論文の執筆③
第8回	実証研究の文献サーベイ②	第24回	研究論文の執筆④
第9回	実証研究の文献サーベイ③	第25回	研究論文の執筆⑤
第10回	実証研究の文献サーベイ④	第26回	研究論文の執筆⑥
第11回	実証研究の文献サーベイ⑤	第27回	研究論文の執筆⑦
第12回	実証研究の文献サーベイ⑥	第28回	研究発表①
第13回	実証研究の文献サーベイ⑦	第29回	研究発表②
第14回	実証研究の文献サーベイ⑧	第30回	研究発表③
第15回	実証研究の文献サーベイ⑨	第31回	研究発表④
第16回	定期試験	第32回	定期試験